

道退教空知

空知支部ニュース (題字 安宅 隆氏)

2013年12月 1日 NO129

全北海道退職教職員の会空知支部

略称 道退教空知支部

〒073-0027

滝川市東滝川町4丁目16-27

松山正敏方

Tel・Fax 0125-28-2408

e-mail em55ef@bma.biglobe.ne.jp

お元気ですか！

もうすぐ師走を迎えます。お元気ですか。1年があつと言う間に過ぎていく感じですね。国会は秘密保護法案をめぐって連日の闘いがくりひろげられ攻防の熱がおびてきています。国会内、国会外で反対世論大きくなり、自公政権・みんな・維新で成立させようという画策も後ずさりさせてきています。戦前の治安維持法につながる流れを許すわけにはいきません。世論をさらに大きくして絶対阻止していきましょう。

さて、道退教から「活動方針の具体化」という要請がありました。今年度5月の道退教総会で現職教職員・地域住民・諸団体と共同で憲法を守り、平和と民主主義を前進させるための具体的な行動をしていこうと決めました。

空知支部はこの要請について、11月18日の第2回役員会で具体化の話し合いをおこないました。また各ブロックの会員状況の交流も行いました。交流では、会員の多くが通院中、外出が厳しい、諸団体の活動で多忙などの報告がありました。みんなで集まって集会や学習会を開くことはなかなか厳しいとのことでした。

この現状を踏まえて、以下の事を具体化して取り組むことになりました。

体験や経験・記憶を残そう！

ぜひ原稿を書いて下さい

戦後68年が過ぎ、過去のことを後世に残す活動をします。

テーマの例として、私の子ども時代、終戦を迎えた日のこと、終戦後の生活、私が教職についたころなど、過去の体験や経験・記憶を残す活動を行います。

具体的には、会員に原稿を書いていただきます。(自主参加です。ぜひお願いします！)

原稿の長さは自由ですが、A4サイズで3枚(5000字)程度をめぐりに考えています。

*同封した原稿用紙か、各自ワープロで作成した原稿を送ってください。

その原稿をもとに印刷・製本(A4サイズ・縦書き)、配布します。

原稿のしめ切りは、2014年2月末日です。(送り先 事務局 松山まで)

発行は、2014年5月を予定しています。

発行部数などは、経費をとまなうので今後事務局で検討していきます。

岩手・宮城・福島から

中空知ブロック 佐藤明彦

この秋、10月22日～24日にかけて全退教ツアー「津波・原発事故現地から再生の道を考える」に参加することができた。2011年の秋は、北海道東北ブロック交流会「三陸沿岸 被災地に学ぶ」に参加して、岩手県の釜石～大槌～陸前高田をまわった(170名の参加で、宿泊は遠野)。<「道退教ニュース No.117」参照。また釜石で自宅と全財産を失いながらも、終日ガイドをして下さった岩手退教の中川淳さん(78歳)の体験は「全退教ニュース No.59」に掲載されている>

今回は宮城県と福島県なので是非、どうなっているか確かめたくて参加した。<参加定員は120名、しかし全国からの申し込みは300名を越え、バス4台180名のツアーになった。> フェリーで着いた仙台港、津波の高さは「7.2m」と表示されていた。

仙台駅集合の後、被害の大きかった石巻市へ向かう。犠牲者18000人のうち宮城県は9537人。そして石巻市の犠牲者は4700人(岩手県の犠牲者数よりも多い)。「津波は松林を越えてきた」という。渡波地区は水産加工工場群の地域。冷凍魚の始末と悪臭がひどかったとのこと、伝染病が流行しなかったのが幸이었다。

宮城県水産高校で、平居高志教諭から話を聞いた。津波到来、床上50cmで止まったがなかなか曳かない、地盤沈下による連日の冠水(地盤沈下70cm、大潮時は膝上まで)と、電気関係の損傷。船と艇庫など被害が大きかった。学校は避難所指定ではなかったが、350人が避難に。指定を受けているかいないか関係なく、職員3交代で対応したとのこと。高校プールの水はトイレ用に、船舶用の油があり、食糧・飲料水は常時約1ヶ月分保管しているので、比較的恵まれていた。<流言飛語>もあり、避難場所の態様は実に多様、日々変化したが、組織された教職員集団で乗り切ったとのこと。学校は、15キロメートルの上流に移転し仮校舎で授業、復帰したのは2013年1月。通学の交通機関や実習の砂浜がなくなった(防潮堤が作られた)。仮設住宅が建設されたので、グラウンドあと1年半は使用不能。「震災は、現在形であり人災だ」と。

次に訪れたのは、門脇地区。1700世帯市街地が全域浸水、瓦礫量も多く住宅の76.6%が破壊。「津波が道路を走ってきた」と案内の菊地英行さん。車の発火・エンジンをかけていたので海水によるショート・燃えた住宅・プロパンの発火・灯油庫の発火などで、門脇小学校(明治6年創立)の校舎は、津波と火災で全壊・全焼。224人の生徒と教職員21人は日頃の避難訓練通り、墓地脇の階段を使い裏側の日和山(海拔56.4m)に避難できた。周りは海水で3日間孤立だった。後日、1階校長室の耐火金庫から卒業証書が見つかり4月15日に卒業式が行われたことは、ニュースにもなった。ここは、全面が更地でまだ瓦礫も残っていた。子どもの現状は、身体的精神的障害がありフラッシュバックもある。学校の統廃合も課題になっているようだ。

「平成の大合併が被害を大きくした」と。山越えで3日目によく連絡がついた地域

や、おさき地区 16 戸に電気が通ったのは、2013 年 8 月 25 日など。牡鹿半島の地域はすべて孤立していたとのことであった。

バスは東松島市に向かう。航空自衛隊松島基地があるが水没。戦闘機 28 機(1 機 1050 億円)が水浸し、検査に 680 億円を使ったが、戦闘機は駄目になった。

瓦礫と更地が広がる。2 年前の岩手で見た光景と変わらないところも。被害が大きかったのは、高齢者福祉施設であった。海岸線は土地が安価なので、低地に施設が多かったとの説明を聞いた。仙台高速道路を走る。道路は津波をかぶったが「防潮堤」の役割を果たした。何もない海岸側と家屋が残っている陸側の光景はまったく対照的。水田の瓦礫撤去は、全退教や多くのボランティアが「横一列」になってやってくれたと。

2 日目は三陸自動車道路を南下し、福島県へ向かった。南相馬市小高地区→浪江町→飯館村。案内は農民連の池田達也さん。線量計が「音」を出す。相馬市 0.03 マイクロシーベルト、やがて 0.09 に。そして、南相馬小高地区 0.31、飯館村 0.63 から 0.82 に。原町地区になってようやく 0.15 に(線量のいくつか聞き漏らした)。

南相馬の小高地区の市街地で下車。日本国憲法制定と関わった鈴木安蔵の生家を見学。この地区は 4 月からようやく立ち入りが可能になったところ。崩壊した家屋もある、商店は雨漏りや家ネズミの巣になっていて、住めるような状態ではない。僅かに役場の 4 人・郵便局・旅館(除染の作業員用)・銀行・ガソリンスタンド・金物屋(作業用の用具)だけに人が。そして人影のない広い道路に信号灯(電気は東北電力)が点滅しているだけの不思議な光景。

除染土を入れた黒い袋の山が点々と見えた。自分の敷地に置かなければならない。南相馬市は「戻れ」と、上下水道の工事をしている。農家は、作付け制限で 3 年間米をつくっていない。風評被害でも作らないともらえない賠償金。農民の平均年齢は 67 歳から 70 歳。精神的にも身体的にも米作りの意欲が萎える。避難生活で「生きる意欲」が萎み、先行きへの不安の毎日。

浪江町に入るが、バス車窓からの見学。ここは「避難指示解除準備地域」。JR 常磐線が防潮堤になった。今はどこからでも海が見えるようになったが、道路の脇に大きな漁船が点々と。陸に上がったままの 2 年 8 ヶ月。陸地は一面のセイタカアワダチソウの群落が続く。請戸川の橋まででバスは引き返した。晴れていれば向かいの山の上に、福島第 1 原発の建物の上が見えるらしい。

「逃げ回っていた」と言う池田さんの言葉が、今も耳に残っている。3 月 11 日は雪の降る夜、相馬市に避難したが、「南相馬市民は出て行ってくれ」と。相馬市役所は<相馬市民を守る>なので。避難した施設のコンクリートの床は冷たい。相馬市は、毛布を配布しない、「平等にしなければならぬから」と。しかし「後ろを向いていてくれ」と自分たちで配り始めた。後から沢山の毛布が届いた。隣に「遺体安置所」にあるので<くにおい>がひどかった。また高齢者が 2 階 3 階に回され、トイレが外。大変だった。それから各地を

転々と避難し続けた、と菊地さんは語った。バスは、検問所でタイヤを「除染」した。

この日のホテルでの夕食後、21時から「原発問題懇談会」があった。「原発震災から2年7ヶ月、福島いま」を、伊藤達也さん（原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員）が話してくれた。

1968～69年頃「原発は作るのも大変、動かすのも大変、廃炉も大変」と言われていた。＜原発は平和利用だ＞という良心的な学者もいて、国民的世論は作る方向へ進んだ。

そして今。

- * 危機的事態が続いている。
- * 「事故収束宣言」はきわめて意図的であった。
- * いつになったら避難生活が終わるのか。
- * 深刻な被害が続く漁業・農業。
- * 軋轢と対立が持ち込まれている。
- * 進まない賠償。

＜多くの住民が苦しみとストレスの中で暮らさざるをえない＞なかでの分断。

フクイチからの距離で、放射線量で、賠償金で、津波被災と原発被災との対応の違いで。被災者同士で対立したり、「鬱憤」が同じ被災者に向けられる異常さ。

いわき市で年末に「被災者帰れ」との落書き4箇所であり、正月に仮設住宅内の車7台のフロントガラスが破損された。また仮設住宅にロケット花火が打ち込まれた。

仮設住宅の家賃は無料、月10万円の精神的弔慰金。「あの人たちはお金をもらっている」との声。生活費は自分で。「なりわい(生業)」の問題。職を失った人は大変だ。何もすることがない苦しみから、アルコール依存で崩れていく人も出ている。

交流の中で道退教からも発言。北海道に約3000人が避難。ほとんどが母子避難で、最近には様々なストレスで深刻な状況も出ているが、道退教札幌の会員などがボランティアで支える活動をしていると。

「除染したからもう住める」かのようなマスコミの報道は、事実を伝えていない。私は重い現実、帰りのフェリーの中でもしばらくは啞然としていた。



門脇小学校の生徒は、左側の墓地から右側の日和山へ避難した

ご協力ありがとうございます。

教育署名370筆をこえました。(昨年270筆)

11月29日現在、会員の皆さんから370筆をこえる署名が集まりました。まだ未提出の方もいますので、さらに増える予定です。

深川の加藤さんは150筆を集め、100筆を高教組に、50筆を道退教に提出しました。こうした皆さんの奮闘で昨年をこえる署名を集めることができました。ご協力に心から感謝いたします。 南空知(120) 中空知(120) 北空知(130)

第2回役員会報告

議題	報告内容
1	道退教からの要請・具体的な活動について 1ページの記述を参照下さい。
2	各ブロックからの報告 南空知、 8月10日 現職教員との交流を実施。参加者は4名。 11月20日 会食会を実施 5名の参加 多忙で参加できない会員(中村、大町、鎌田さん) 病気治療中(佐竹、宮林、佐藤重夫さん) など参加できない会員が増えている。60代は概ね元気とのこと。 美唄 行事を予定したが病気・多忙などが主な理由で実施できず。 忘年会を12月に予定。例年6名～7名が参加している。 中空知 11月9日 2年ぶりに集いを開催する。10名(15名中)参加。体調不良4名、個人的な用事で1名が欠席。 富澤さん(85才)参加。老眼鏡なしで新聞を読めるとのことです。 北空知 7月を除き5月から10月まで毎月パークゴルフを実施。6・10月には、手島宅で焼肉をおこなう。ほとんど参加。(倉重さん病気で参加できなかった) 現職教員との交流会を検討中。 夕張 役員欠席
3	教育署名について 11月末まで集めることを確認。
4	次期役員体制について 次期事務局を美唄が引き受けることが可能か 美唄ブロックで検討する。(年内) 美唄の結論を受けて、再度協議する。 3月に第3回役員会までに体制を確立する。

今後の予定

2014年 2月末 原稿締め切り

3月中旬 第3回役員会 *総会(5月)に向けての協議 会計報告、役員体制の確立など